

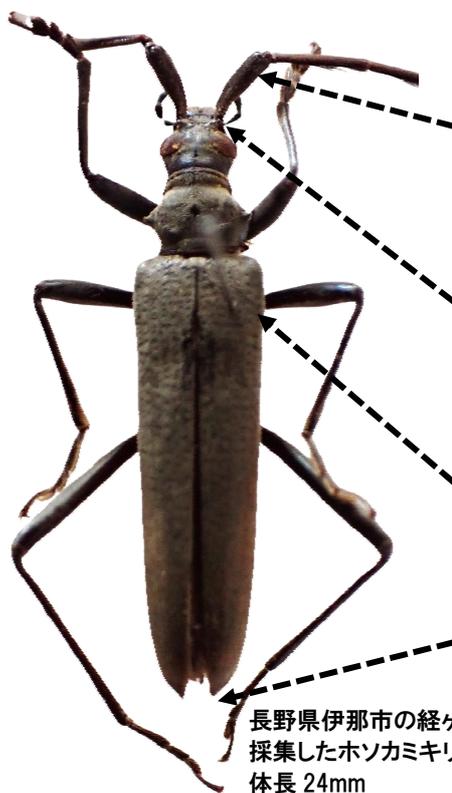
世界に一つ！ホソカミキリの化石

—350万年前から変わらない原始的なカミキリムシ—

どんな昆虫？

兜岩層から見つかったホソカミキリ科の化石です。この科の化石は世界中どこを探しても、この標本以外見つかりません。茂木伊一氏が群馬県南牧村広河原で採集した標本です。

この化石は、日本各地で見られる現生のホソカミキリと、ほとんど違いがみられない！



① 触角第1節が非常に大きく太い

② 触角は大顎のすぐ後ろにつく

③ 上翅の上半分に粗い点刻が目立つ

④ 上翅の先端が刺状

長野県伊那市の経ヶ岳で採集したホソカミキリ
体長 24mm



標本番号 SNM-F-Kb-338
体長約 25.2 mm
スケール 5mm

！ホソカミキリは 350 万年前からほぼ姿を変えずに日本列島に住んでいた

ホソカミキリはカミキリと名が付いていますが、カミキリムシ科ではなくホソカミキリ科に所属します。ホソカミキリ科は世界で約 300 種が知られておりその多くが南半球に分布していることから Gondwana[※] 起源の昆虫と考えられています。日本にはホソカミキリ *Distenia gracilis* (Blessig, 1872) とオオクボカミキリ *Tengius okuboi* Matsushita, 1938 の 2 種が分布しています。

※ 過去に存在したと考えられている大きな大陸。現在のアフリカ、南アメリカ、インド、南極、オーストラリア、アラビア半島、マダガスカル島が含まれていた。